



2024年2月13日

各位

会社名 オーナンバ株式会社
代表者名 代表取締役社長 木嶋忠敏
(コード番号 5816 東証スタンダード市場)
問合せ先 常務取締役管理部長 宮本敦浩
(TEL. 06-6976-6101)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 現状分析

| | | 2016年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|-------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | 百万円 | 36,896 | 35,750 | 31,389 | 36,952 | 43,638 | 44,758 |
| 営業利益 | 百万円 | 1,213 | 855 | 761 | 1,104 | 2,528 | 2,471 |
| 当期純利益 | 百万円 | △ 363 | 505 | 524 | 1,017 | 2,133 | 1,984 |
| ROE | % | △ 2.4 | 3.4 | 3.4 | 6.1 | 11.1 | 9.1 |
| 配当性向 | % | — | 27.1 | 25.6 | 16.8 | 13.7 | 25.2 |
| 配当金/株 | 円 | 10.0 | 11.0 | 11.0 | 14.0 | 24.0 | 41.0 |
| PBR | 倍率 | 0.37 | 0.38 | 0.31 | 0.34 | 0.45 | 0.45 |

当社のROEは株主資本コスト（推定約7%）との対比では、2020年迄は下回る水準で推移していましたが、2021年より同等もしくはそれ以上の水準になっております。尚、2022年は急激な為替の影響等特殊要因もありそれを除くと9%程度の水準と認識しております。

配当に関しましては、安定配当を基本にしており赤字の年度にも配当を実施し、配当金額を着実に増加させることに取り組んでまいりました。その結果、配当性向の増減と、利益の増減は反比例する傾向になっておりました。

これらの結果として、PBRが過去5年間0.3~0.5倍の間で推移していると認識いたしております。

2. 方針・目標

当社は、株主各位に対する利益還元が企業として最重要課題の一つであることを常に認識し、資本コストを意識しながら事業を推進することで、収益性の向上を図り、さらに事業リスクに備えるとともに、新規分野の積極的投資や株主還元の強化を進めることで、持続的な成長を実現させ企業価値向上を目指してまいります。

3. 取組み

①事業成長と収益性向上

本日発表の新中期経営計画 PROGRESS 2026 の基本戦略（成長戦略、生産戦略、経営基盤強化、資本コストを意識した経営）の着実な実行により、株主価値向上に取り組んでまいります。基本戦略の実行のため、重点成長分野向けを中心に、前中期計画対比倍増となる総額 71 億円（前中期経営計画比 35 億円増）の投資を行います。内訳は、設備投資 51 億円（同、27 億円増）、研究開発投資 20 億円（同、8 億円増）であります。

PROGRESS 2026 の最終年度には、株主資本コスト（推定約 7%）を上回る ROE 10%を具体的な目標といたします。

②株主還元強化

従来の安定的な株主還元方針を、積極的な株主還元に変更します。段階的に配当性向を引上げ PROGRESS 2026 の最終年度には配当性向 30%以上を目標といたします。

また状況に応じて自己株式の取得を行うことも検討いたします。

③IR活動の充実

株主・投資家とのコミュニケーションの機会を充実をはかるとともに、昨年リニューアルした当社ウェブサイトにて従来の財務情報に加え、サステナビリティ等の非財務情報発信の充実を図ってまいります。

以上